

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374900260		
法人名	有限会社 雄生		
事業所名	グループホームのどか ユニット1		
所在地	愛知県日進市赤池町南2丁目705番地		
自己評価作成日	令和4年9月26日	評価結果市町村受理日	令和5年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&Jigy_osvoCd=2374900260-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和4年10月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新興住宅地域にホームはあり、公園への散歩は日課としており、今年はコロナ禍で、中止や縮小になった行事もございましたが、お花見や近隣の農業センターへ出かけるなどなるべく多くの、そして密にならない外出企画を行っております。今年でホームも19年目となり、ユニット2も出来、夏祭りを合同で行いました。日常生活の中では、家庭的な雰囲気の中、皆様のお出来になる事に着目し、買い物をはじめ料理、洗濯など入居者様とスタッフが協力しながら行って、役割のある暮らしの中で、その方らしく楽しく暮らして頂ける様支援させて頂いております。又、医療面では看護師がそれぞれ健康管理をサポートし、安心して安全な暮らしへと繋げております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは広めの空間が確保され、木のぬくもりを大切にしたい雰囲気がつくられていることで、利用者は日中の時間をゆったりとした気分で過ごしている。身体状態の重い方もホームでの生活を継続できるように医療面での連携も行われており、最期まで過ごすことができるような支援体制がつくられている。感染症問題が続いていることで、地域の方との交流や利用者の外出が困難な状況が続いているが、職員間で利用者への支援を検討しながら、前向きな生活の実現につなげているまた、当ホームについては、長年にわたり1ユニットで支援が行われていたが、新たに新ユニット(ユニット2)を増設しており、利用者職員も増え、2ユニットの新たな体制で支援が行われている。ユニット2の建物についても、ユニット1と同じように木のぬくもりを大切にしながら落ち着いた生活環境が整えられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	研修でも運営理念を学び、玄関にも掲示した上で常に心掛け、実践につなげている。	開設時からの理念を職員による支援の基本に考え、日常の支援を通じて職員への周知が行われている。当ホームについては、1ユニットから2ユニットに増設が行われているが、理念についても新たに入社した職員への周知が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ渦ではあるが、日ごろから地域とつながれるよう事業所はお月見泥棒など地域行事に参加し、ご入居者を支援している。又、近隣の方から柿やさつま芋を頂く事があり、地域の一員として交流を深めている。	感染症問題が続いていることもあり、地域の方との交流が困難になっているが、地域で行われている行事(お月見どろぼう)が行われる際には、ホームも協力しており、可能な範囲で交流を継続している。また、ボランティアの方についても徐々に受け入れを再開している段階でもある。	ホームでも徐々に地域の方との交流を検討している段階でもある。今後の感染症の状況もみながら、地域の方との交流が再開されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症といった病気を持つ高齢者のご入居者の方々が、地域に関わる事こそが地域の人々の理解につながると理解し実践している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を2か月に一度実施している。話し合う内容の主だった事は行事報告やヒヤリハット、苦情についてだが、話された事をサービス向上へと繋げている。又、区長より地域のお知らせ等も頂いている。	会議については、感染症の状況をみながら判断しているが、基本的な方針として会議を継続する取り組みが行われている。会議の際には、様々な分野の方の参加が得られており、ホームからの報告を行いながら、参加者との意見交換等を行い、ホームの運営につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	日進市の担当者とは、サービスの取り組等を伝えながら協力していただいている。又、運営推進会議にも参加して頂き、その席で意見等を伺いながら実際のケアに活かしている。市の相談員の受け入れも行っている。	今年度に入り中断していた市の行事でもある「産業展」が再開される等、ホームも参加する機会をつくり、徐々に交流を再開している段階でもある。また、市の防災訓練についても参加に前向きな方針でもあり、関係機関との情報交換等につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について研修でも勉強しており、内容を理解した上で職員はスピーチロックを含め行っていない。玄関は死角となる為ロックしてあるが、行きたい場所があれば職員が付き添う。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、玄関以外の場所から外に出ることができることもあり、職員間での見守りが行われている。また、運営推進会議を通じた身体拘束に関する検討や職員研修の取り組みも行われており、振り返り等につなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止関連法については、マニュアルも去年作り直し研修も行い、見過ごされる事がないよう注意を払い防止している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修にて学ぶ機会はある、認知症介護だからこそ学ばなければならないと思っている。又、その都度、個々の関係者と話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分な事前説明を行っている。ご入居後も常に疑問や不安がないかを尋ねている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご面会時には、必ず最近の様子をお伝えしながら、要望がないかお尋ねしている。又、お一人では言いにくい要望などを言い出しやすいよう、家族会を行っている。中々お目にかかれない方は電話でお尋ねしている。	家族との交流が困難な状況が続いているが、面会の機会をつくる等、徐々に交流を再開している。管理者が法人代表者でもあることで、家族からの要望等に柔軟に対応する体制がつけられている。年4回のホーム便りについては、ユニット毎に作成している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は日常的に意見や提案を聞いて反映させている。又、月に一度全体ミーティングを開催し意見や提案を聞いている。	管理者2名体制であり、1名が法人代表者でもあり、代表者が把握した職員からの意見等をホームの運営に反映する取り組みが行われている。日常的な申し送りについてはユニット毎に実施し、職員間での意見交換等が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の自己評価を考慮し評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内での研修は毎月行っている。又、OJTでのトレーニングは適任者の指導を新入社員が受けるなど、教える方にも実践的な学びの場となっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	コロナ禍の為、減っているが、他施設でも働きながら学ぶ職員もおり、その方の発想で業務が改善した事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前の面談から入居後落ち着けるまで、ご本人のお言葉や表情から不安や安心を感じ取り、ご本人にとっての安心とは何かと考え支援し、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	初回の面接時から不安や要望などご家族のお話にも耳を傾けながら一緒に考えるよう努め、解決できるように話し合いを重ねている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人やご家族のお話にも耳を傾けながら、ニーズを見極め支援している。他のサービスが適当だと思われる場合、そのサービスが受けられる様支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	家事活動など一緒に行うなど生活を共にし、ご入居者が職員を気遣ってくださる場面も多々ある。又、看護師が子供を連れての勤務の為、利用者が面倒をみながらも、お喜びになっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族とご本人の支援について十分な話し合いを行い、共に考えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ渦の為、実地していないがご本人が大切にしてきた馴染みの人の話をこちらから聞くなど努めている。	外部の方との交流が困難な状況が続いているが、利用者の中には入居前からの生活習慣を継続している方もあり、入居前からの関係の方との交流の継続にもつながっている。家族との交流も段階的に緩和しており、外出の機会をつくる支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	関係を仲介しながら、それぞれ相性のよい方と過ごせるよう支援している。又、それぞれの力を引き出し役割を持って頂く事により支えあって生活を送って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他施設に移られた場合訪問し様子を見に行ったり、電話にてご家族の様子を伺ったりしている。必要であれば、相談や支援を行えるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや希望が違う事を職員が理解し、把握している。その上でご本人の意向に添える様努めている。	毎月の利用者毎の報告については、ユニットにより方法が異なっているが、職員が把握した利用者の意向等については、申し送り等を通じて共有が図られている。また、毎月のカンファレンスを実施し、日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前はもとより、入居後もご家族より情報を頂き、暮らし方の検討に役立てている。ご本人の言葉の端々から伺える話を基に、再度ご家族からの聞き取りをすることもあり把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	出来る事出来ない事、わかる事わからない事を、定期的にあセスメントをし現在の有する能力を把握している。心身の状態はタイムリーな申し送りがなされ、情報は共有されている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	カンファレンスを定期的開催し、チームで検討する事で課題の発見に繋がる事もあり、介護計画に反映させている。	毎月のカンファレンス等を通じたモニタリングを実施しており、利用者に関する状態変化等の把握につなげ、6か月を基本に見直しが行われている。また、日常の記録を行いながら、利用者の状態変化等の把握につなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録を読む事が習慣化されている。情報共有の為の話し合いは、日常的に実施され実践に活かしている。又、実践した内容から介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	コロナ渦で困難だが、個別支援として、行きたい場所へ出かけたり、必要な医療が受けられるよう専門医を探し、受診できるよう支援している。ご家族と共にご本人の支援を考えて必要な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	買い物に出かけたり地域の行事に参加する事はコロナ過において困難であるが、ホーム周辺の散歩を通して交流の場を持ちながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医など希望がある方は添えるようにしている。又、協力病院の医師とも相談しやすい関係にあり、医療との連携が取れている	複数の医療機関との連携を行い、利用者の状況に合わせた支援が行われている。受診についても、家族による支援の他に職員による支援も行われている。また、複数の看護師が勤務しており、協力医との連携や医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職員の気付きや捉えた情報を施設看護師に伝え相談しながら、介護、看護で協力して利用者様の適切な受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の医師、看護師、ケースワーカーと相談しながら、出来るだけ早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	必要となる前に、ご家族やご本人(ご理解や意思疎通が可能な方)と終末期について話し合っている。ご家族とは、看取りについても事業所で出来る事を十分に話し合い、医師を含めチーム全体で支援している。	身体状態が重い方も生活を継続することができるよう、医療面での支援が行われており、利用者の中にはホームで最期を迎えた方もいる。利用者の段階に合わせた家族との話し合いを重ねながら、ホームで対応可能な内容の確認が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	必要な指示や判断をいつでも求められるよう連絡体制を取っている。判断力や実践力には力量の差はあるも、半年に一度の訓練をし役立っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	半年ごとに防災訓練を行うと共に、必要な物品の見直しを行っている。又、非常時の連絡網も作っている。	年2回の避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練や通報装置の確認が行われている。当ホームは、2ユニットの体制に移行したことで夜勤者が2名に増え、連携した訓練が行われている。地域の災害訓練にホームからも参加する取り組みや水や食料等の備蓄品の確保も行われている。	感染症問題が続いていることで、近隣の方との交流が困難な状況が続いていることもあるため、ホームの継続的な取り組みにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの尊厳やプライバシーについての話し合いは日常的に行われている。又、研修テーマでも取り上げ対応に活かしている。	職員からの意見から「カンフォータブルケア」に関する内容をホーム内に掲示する取り組みが行われており、職員の言葉遣いや対応等の意識向上につなげている。利用者のおしゃれに関する支援も行われており、利用者を尊重した対応につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常にご本人の思いや希望が何処にあるのか職員は考え、自己決定を促している。言葉にできない方は、表情などから汲み取り思いが叶うよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご本人の意向を大切にしながら、どの様に暮らす事がその人らしいのか考え、支援に活かしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	日常的に働きかけている。例えば、入浴後の着替えを準備する時、選んでいただき、選びづらいには方は2枚の上着より選んでいただくなど工夫をし支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立の希望、調理、配膳、片付けなど、常に職員はご入居者と一緒に行っている。又、献立に嫌いな物がある方は別の物にするなど配慮している。	職員でメニューを考え、利用者の好みや嗜好等にも配慮した対応も行われている。利用者も調理や片付け等のできることに参加しており、おやつ作りや季節等にも合わせた食事の提供も行われている。利用者の身体状態に合わせた食事形態の対応も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	飲水量の記録をしている。食事の量、栄養は把握し一人ひとりに応じた援助をしている。嗜好、咀嚼力への配慮もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	義歯の磨き方が不十分な方は後で磨き直すなど、ご本人の出来る事、出来ない事に合わせた介助をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄サイクルは表にして掴んでいる。声掛けをして促したりトイレにお連れするなど支援している。	利用者全員の排泄記録を残し、一人ひとりに合わせた排泄支援につなげる取り組みが行われている。トイレでの排泄を基本に、職員2名による支援も行われている。また、排泄に関する医療面での支援も行われており、排泄状態の維持、改善につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	乳酸菌や食物繊維など摂って頂くよう支援したり、野菜を多く取り入れ、体操や散歩を促すなど工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	現在毎日入りたいといった希望はないが、希望がある時は入浴して頂ける。拒否がある方は、入りたいタイミングを見つけ入浴して頂いている。	日常的に入浴の準備を行いながら、利用者が週3回の入浴ができるように支援が行われている。時間についても午前と午後に対応しており、入浴を拒む方にも随時の声かけが行われている。また、現状、ユニットにより入浴設備が異なって特徴がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	休息はその方に応じて取って頂く。又、夜間眠れない時は職員とお茶を飲みながらゆったりと過ごしてから入床するなどその方に応じた支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師が服薬管理表を作成して、スタッフに周知されるようにしている。内服薬の変更がある場合には連絡網にてリアルタイムで職員に情報が入る様になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりに合った楽しみを常に模索し尊重している。個別の楽しみ合ったレクリエーションに参加して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ渦で困難であるが、家族と外食に出かける方の支援をしたり、散歩時に草花を摘み、生けていただいたりしている。	現状、利用者の外出が困難になっているが、近隣を散歩する時間をつくる等、可能な支援が行われている。関連事業所とも連携しながら自動車による外出行事が行われており、感染症の状況も考えながら、季節等にも合わせた公園等への外出支援が行われている。	職員間で検討を行いながら、利用者の外出の機会を確保し、徐々に以前の生活に戻す取り組みが行われている。今後に向けた継続的な取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を自分で所持している方もいるが、施設で預かっている方もいる。買い物など必要が生じた時には、ご本人のお金を持って出かける。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙をかけるよう支援してる。又、携帯電話を所持している方でかけることが困難な方は支援をし、施設の電話も掛けられるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	出来るだけ生活感のや季節感を感じられるように支援している。リビングでは庭が見える為、カーテンを開け、季節は感じていただいている。	リビングは広めの空間が確保されている他にも天井が高いこともあり、利用者が日中の時間をゆったりと過ごすことができる生活環境がつくられている。また、新たに増築したユニットについても木のぬくもりを大切にした雰囲気づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	窓際の椅子や和室、ソファなどそれぞれが気に入った場所で過ごされている。又、ご自身で選べない方は、好みを考えた席を用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族にはご入居時より慣れ親しんだ家具の持ち込みをお願いしている。思い出の品や家族の写真などくつろげる空間作りも心掛けている。	居室についても、和風でつくられていることで、利用者の入居前からの生活環境に近い雰囲気づくりが行われている。また、利用者や家族の意向等にも合わせた家具類や好みの物等の持ち込みが行われており、一人ひとりに合わせた居室づくりも行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室には洗面台が設置されており、出来る方はご自身で洗面されたり、髭剃りを行っている。又、トイレの場所や表札など表示したり、見やすい時計を目に付く場所に置いたりしている。		